

三例の糖尿病性腎症導入例

仁和寺診療所

田中 貫一

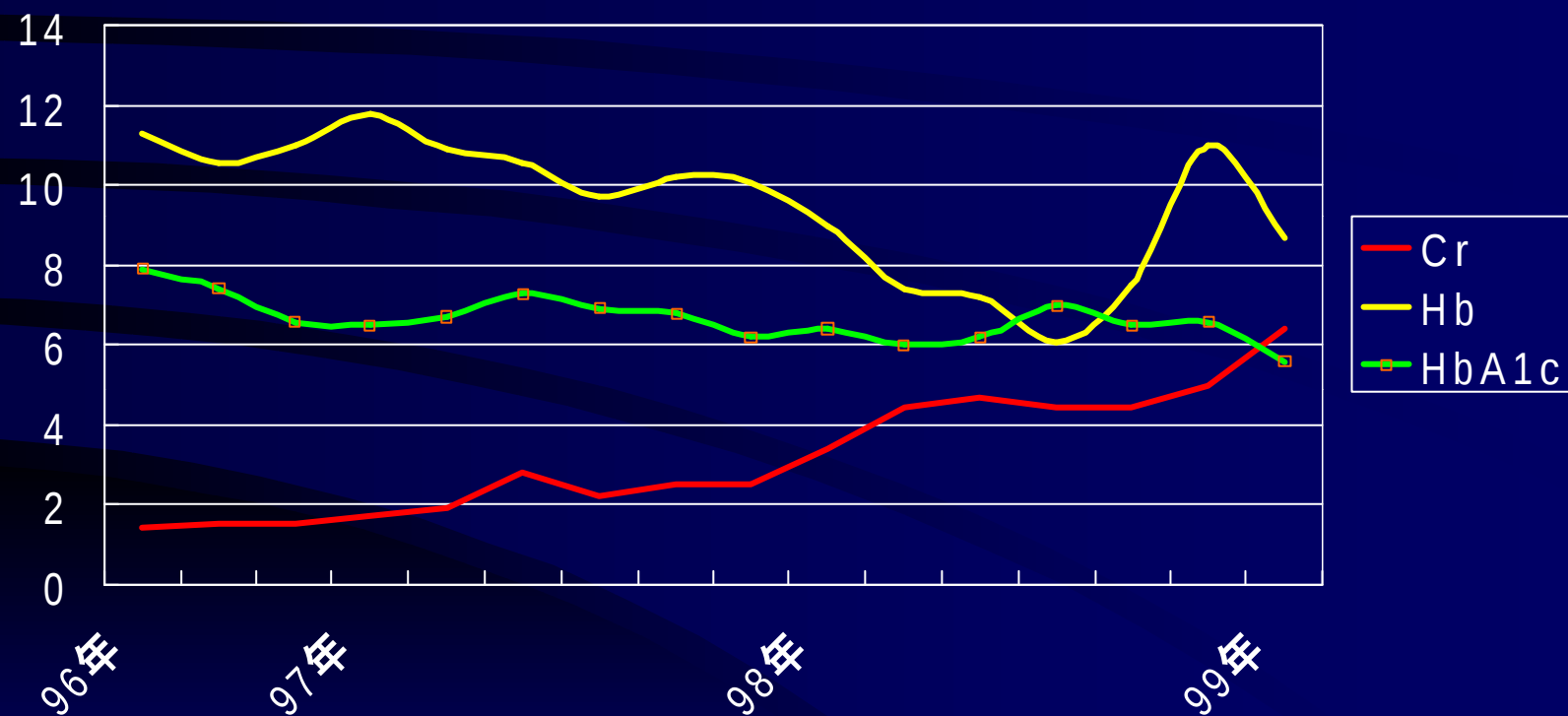
結核症の臨床像(1)

- 結核症の合併頻度 透析患者の結核合併は4.6% 男子で8.5 6.4倍 女子で18.4 16倍ときわめて高率。
- 罹患臓器 一般人では肺結核がほとんどであるが透析患者では約半数が肺外結核であり時に粟粒結核もみられる。

結核症の臨床像(2)

- **結核症発症の時期** 透析導入前にも見られるが多くは透析導入後初期、1年以内に発症する。透析膜と血液の接触による補体系の活性化 各種サイトカインの放出 好中球由来のライソゾーム酵素により、過去の結核結節の乾酪性物質に自己融解が生じ、結核菌が活性化する。

導入までの血液検査の推移



痙攣発作を主訴として導入した 症例

- 74才女性
- 平成8年より慢性腎炎
糖尿病にて佐野医
院を受診
- 平成11年1月右手不
随運動が出現、また2
月10日 意識消失発
作あり 精査を受ける
も器質的な異常なし

導入時の血液検査

血液一般 Ht 18% RBC
197 Hb 6.2g/dl Cr
8.2mg/dl BUN
63mg/dl Ca 4.6mg/dl
iP 6.4mg/dl HbA1c 4.5

動脈血ガス分析

pH 7.302 HCO₃⁻ 14.8
BE -10.1

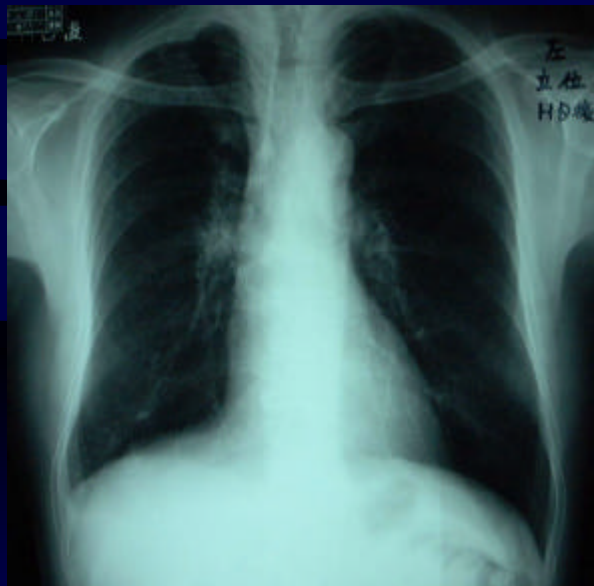
導入後急速に肺病変が進行した糖尿病性腎症の一例

- 74才 男性
- 家族歴 父 肺結核にて死亡
- 既往歴 小学校時代に肺結核で一年間休学 市民検診で血糖値の高値を指摘されるも放置。
- 現病歴 平成7年4月糖尿病の治療を開始 平成10年2月高血圧と腎機能障害を指摘
- 平成11年 Crの上昇あり、血液透析導入となった。

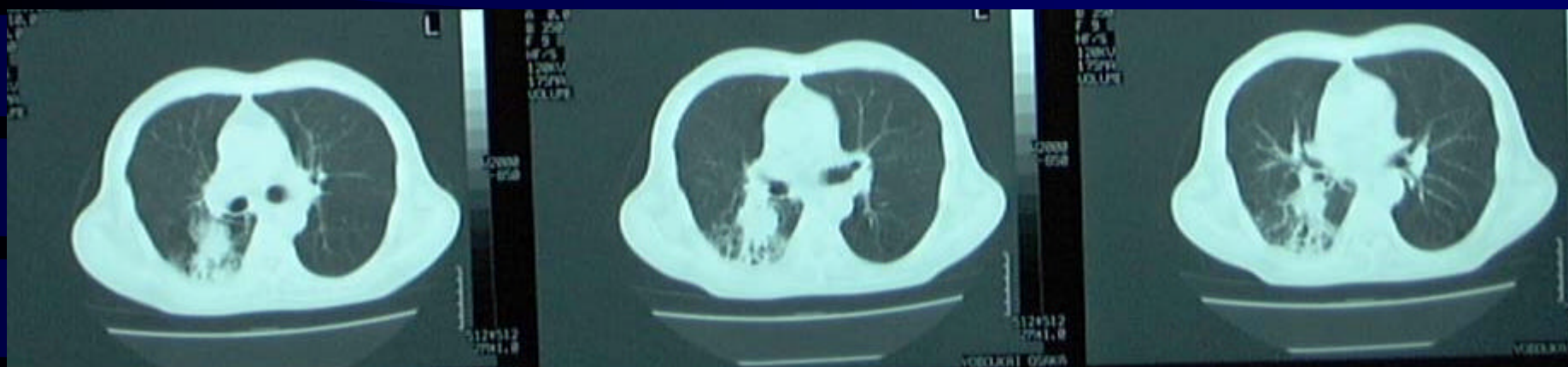
導入前の血液検査

- Hb 8.4g/dl Ht 23.4%
RBC 262 WBC 5400
- Na 128 K 4.6 Ca 7.9
iP 4.0
- HbA1c 5.7
- GOT 9 GPT 6 LDH
294 T.P. 7.6 Alb 3.8
Glb 3.8
- Cr 6.7 BUN 61
- HANP 33pg/ml
- 血液ガス分析 pH
7.324 HCO3 11.8 BE
-12.6

写真で見る経過



CT



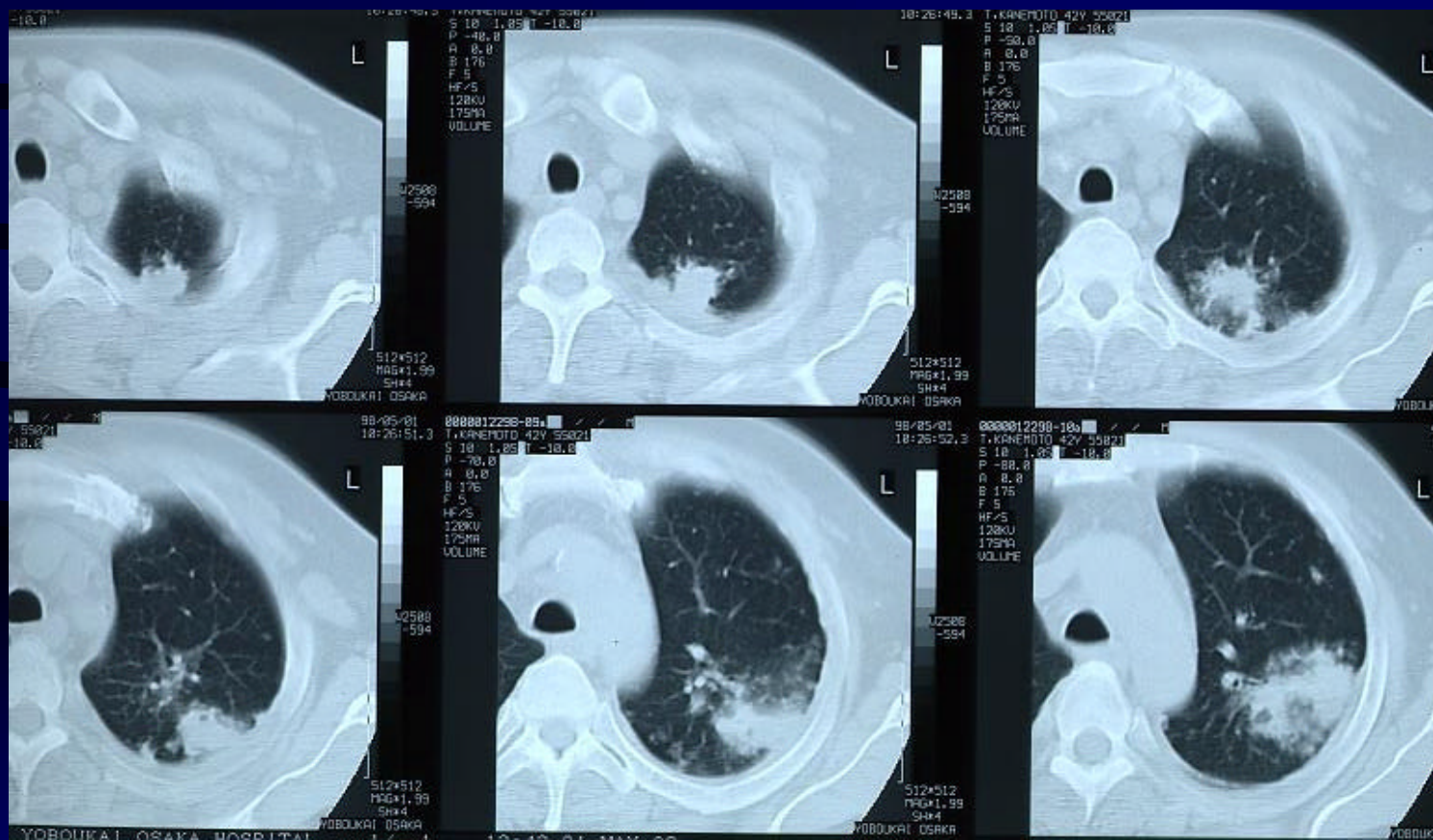
肺結核と診断された一例

- 43才 男性
- 既往歴 25才時 糖尿病と診断
- 現病歴 96.12.05 糖尿病性腎症にて血液透析導入 97.05.10 仁和寺診療所にて維持透析を開始。
- 98年はじめより時々発熱を訴える
- 98.05.01 大阪病院受診 肺結核と診断される。星ヶ丘厚生年金病院にて治療

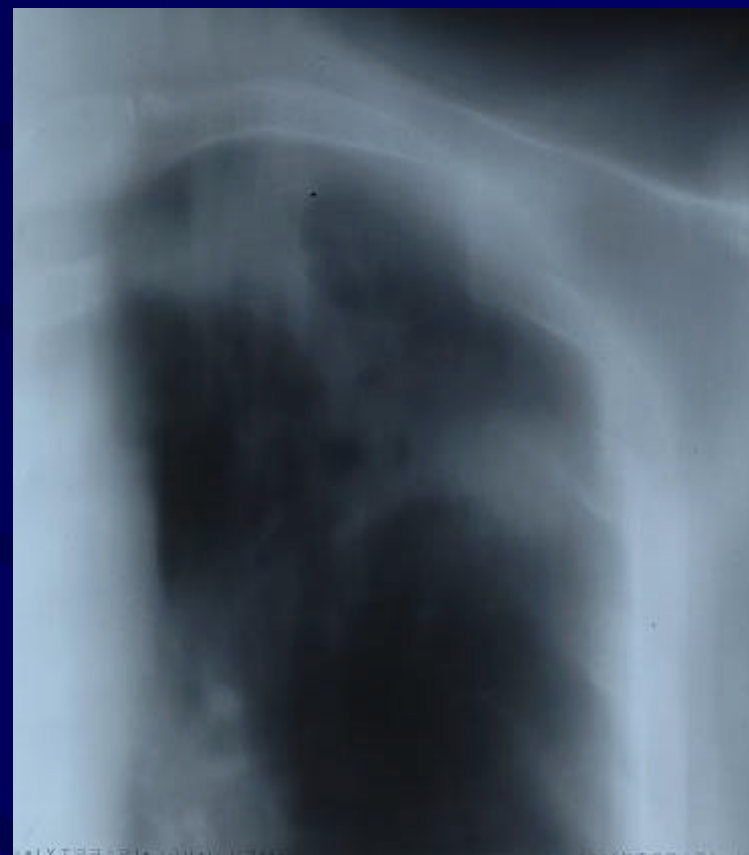
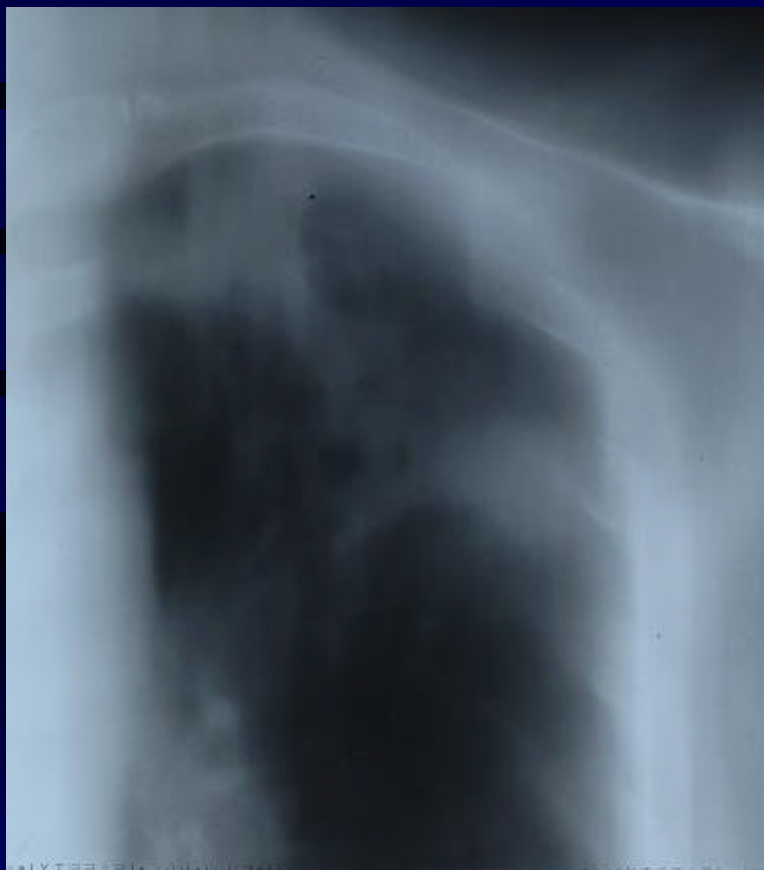
症例のまとめ

	症例 1	症例 2	症例 3
年令 生別	74 Female	42 Male	74Male
糖尿病歴	5 年	10 年	7 年
導入理由	痙攣発作	肺水腫	嘔吐
Cr/BUN	8.2/63	14.4/95	6.7/61
B. E.	-10.1		-12.6
Ht/Hb	18.4/6.0	35.2/11.0	23.4/8.4
問題点	痙攣	発熱	発熱

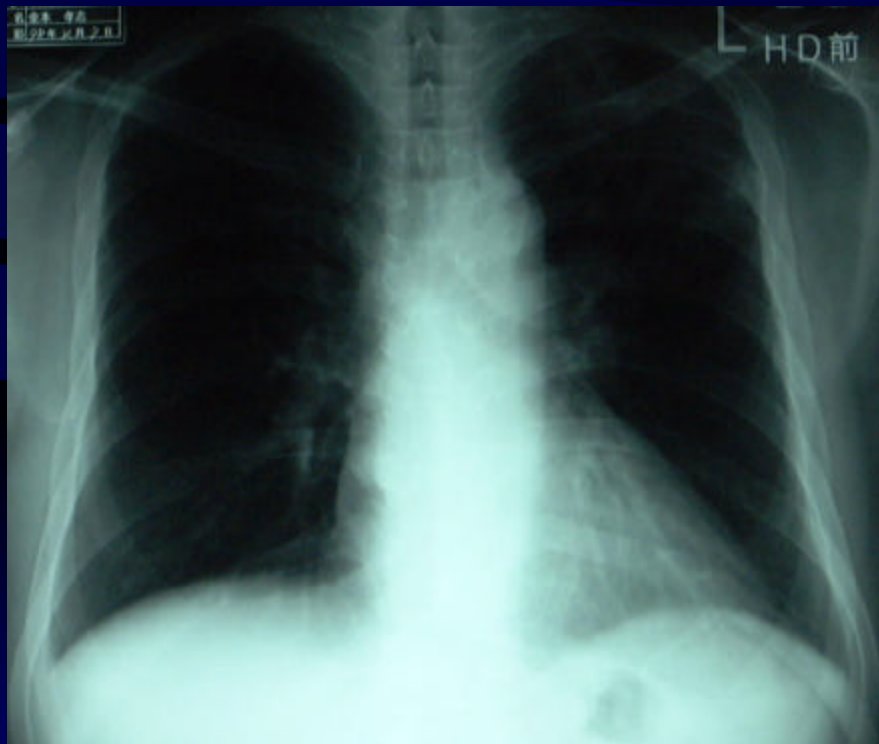
症例2のCT



症例2の胸部断層

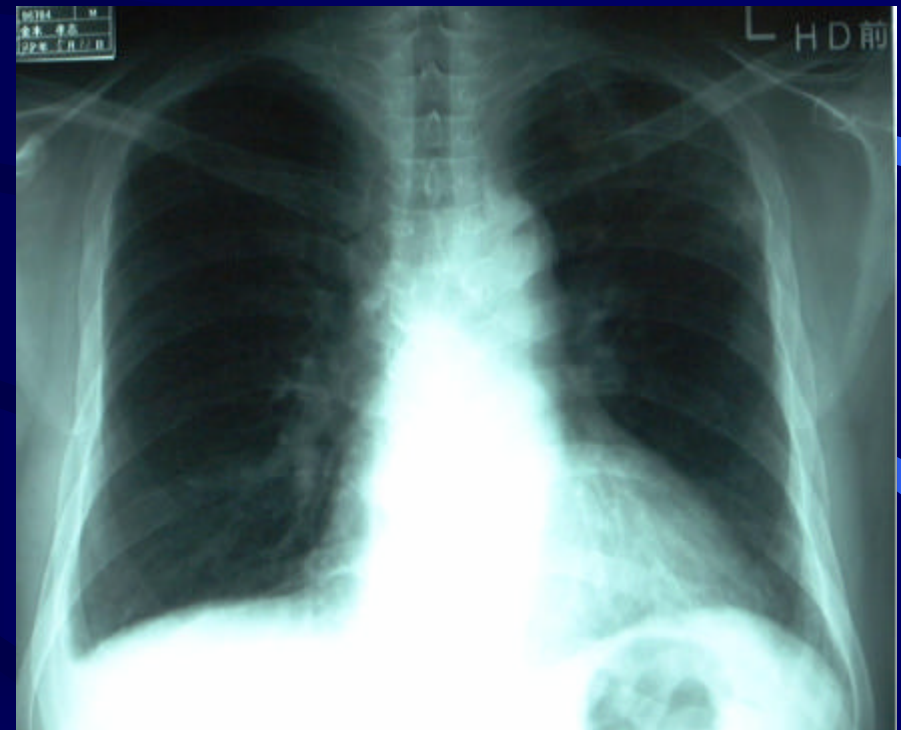


症例2の胸部正面



4月

14



5月

仁和寺診療所

症例1のVB6について

- 透析前の値 1.8ng/dl (3.6~18.0)
- 透析導入後の値 2.4ng/dl

尿毒症症状の一部はビタミンB6欠乏に起因しているといわれている。血中ドーパミンはリン酸ピリドキサン依存であることから血中ドーパミンが低下している可能性がある。

Neuroleptic malignant syndrome について

- パーキンソン病におこる急性増悪として、Levodopaの中断などによっておこる。
- 筋緊張の異常な亢進、原因不明な高熱
意識障害